

シグマ研究委員会 核構造・崩壊データ専門部会
核構造 W.G. サブグループ会合議事録

日時 : 1978年1月23日(火) 10:30~17:30
1978年1月24日(水) 9:30~17:30

出席者 : 神戸(東工大), 喜多尾(放医研), 大矢, 宮野(新潟大), 橋爪, 天道
(理研), 松本, 田村(原研)

議事 :

1. $A = 121$ の Referee の結果

10月末に ORNL, Nuclear Data Project へ送付した $A=121$ のデータ・ファイルについて Editor から Referee へ送られ, Referee の結果が12月14日付と12月20日付の2回の手紙と小包で送られてきた。英文や, データの表現, 記入ミスが指摘されているが, これらはほとんど小さな問題であった。実質的には, Referee が通っており, 日本からの最終的な修正待ちの状態にある。ORNL で作成された Nuclear Data Sheets 形式の表と図を参照して修正を終わり, 1月20日に郵送した。

2. データ・セットの記入に関する変更

$A = 121$ のデータ・ファイルの Referee の結果から, データ・セットの記入について2~3の共通した事項があった。

i) Adopted Level(s) のあるものは必ず $Q\beta$ の値をつける必要がある。

Wapstra-Bos の表(77 Wao 8)に数値が見出せないときは, Janecke(76 Ja 23) を採用する。

ii) General comment の記入で, 従来第1枚目は20カラム目から記入していたが, 10カラム目からはじめ, 語の切れ目を考慮して, ほぼ70カラムで次のカードへ移る。

iii) Adopted levels, gammas からの図が作成されたが, γ レコードにある? マークや同時計数のマークに注意し, 全体として統一した図になるようにする。

3. 核データ研究会

12月20日、21日の両日各ワーキング・グループのトピックスと将来問題としての MeV 領域の核データについての研究会が開かれ、核構造・崩壊データ専門部会から3つの講演があった。

燃料サイクル核データの現状(15分) 梅沢弘一

崩壊熱核データの現状(15分) 山本 徹

A-Chain 評価の現状(45分) 田村 務。

4. $A = 123, 127$ の核データの評価

- i) $A = 123$ については、Decay, Reaction gammas についての編集が終っている。前回の評価で作成したデータ・セットをもとにして HSICC プログラムからの内部変換係数のデータが得られているので、これらを含めたデータ・セットを作成した。Ag, Cd, In, は Adopted level の原案ができた。
- ii) $A = 127$ では、Sb, Te は ENSDF-788 に入っているデータよりも新しい実験はない。しかしながら、 ^{127}Sn の β -崩壊のファイルに1光子エスケープ、2光子エスケープの γ 線が unassigned γ のリストに入っているなどの間違いがある。修正点をまとめ、GTOL, HSICC などのプログラムを原研側で行うことになった。Xe, Cs, Ba, La についてはデータセットの原案ができており、パンチを依頼した。

5. 次回

日時：2月14日(水)

場所：東京本部

議題：Sb, Te, La, Ba, Xe のレビュー

Xe についての文献調査